





サバンナと熱帯雨林にかこまれたテーブルマウンテン



オリノコ川から見たテーブルマウンテン

ギアナ高地のテーブルマウンテンの中でも最大級の山がアウヤンテプイ(現地の言葉で「悪魔の住む場所」)で、その頂上の面積は700km<sup>2</sup>あります。これは東京都より広いので、ひとつの山の頂上が「山のとっぺん」という概念からはかけはなれています。

地上から“閉ざされた”世界であるがゆえに、いまなおテーブルマウンテンの上には恐竜や原始人が生き残っているのではないかという疑問をテーマに、名探偵シャーロック・ホームズの生みの親、アーサー・コナン・ドイルは、1912年に幻想冒険小説『失われた世界(The Lost World)』を発表しました(小説の舞台となったのはロライマ山)。ギアナ高地は年間を通じて殆ど霧に覆われているため、飛行機から測量ができません。最近になって人工衛星による測量が行われるようになり、やっと全体がわかるようになってきました。しかし、いまだ完全な測量、調査は終わっておらず、しかも誰も登ったことのないテーブルマウンテンも沢山あること

より、まだ発見されていない生物が、もしかしたらどこかに潜んでいるかも知れません。

ベネズエラの首都カラカスまでは、残念ながら日本からの直行便はありません。カラカスからは、空路でギアナ高地への拠点カナイマに向かいます。しばらくすると、眼下にはインディオの人々が「悪魔がいる」と恐れた“テプイ(山々)”の姿が…。まるで陸に浮かぶ巨大な戦艦のような姿のテーブルマウンテンがいくつも見えてきます。そして、飛行機は赤土の滑走路に着陸。着後、四輪駆動車にてオリノコ川の支流カロニ川の広大なラグーンに面しているロッジへと。

オリノコ川と雄大な森林に囲まれたカナイマでは、ジャングルを散策したりボートに乗ったりして、付近にある沢山の滝を見物しました。特に、ユリの滝では観光後に滝壺で遊泳し、豪快なサポの滝では滝の裏側を歩いて渡るなど、楽しい体験をしました。川の水(滝も)はタンニンを含んでいるため赤黒く、不気味な雰囲気を



豪快な滝の裏歩き，サポの滝



タンニンを含んだ赤黒い水，アチャの滝

たたえています。台地上では枯れ落ちた植物の分解が遅いため、数m 以上も腐敗した植物が層を作っています。この腐植質を通して流れてきた水は植物のタンニンを含み、赤黒い色になるのです。

ギアナ高地のメインの観光は、何と言っても小型機で鬱蒼としたギアナ高地の密林、水煙を上げ1,000m を落下するエンゼルフールやテーブルマウンテンの全貌を上空から見下ろす遊覧飛行です。空に向かって突き上げるテーブルマウンテン、その神秘的な山々の間には世界で一番落差のある滝、エンゼルフールが…。落差は東京タワーの約3倍、ナイアガラの滝の15倍以上もある“落差世界最大の滝”エンゼルフ

ールは、アウヤンテプイ山にあります。5月から11月の雨季には、ギアナ高地のテーブルマウンテンに降り注ぐ雨が岩の割れ目から流れ落ち、無数の滝となりますが、落差979mのエンゼルフールにかなうものはありません。台地の上を流れる川が、森や湿地帯、岩盤帯を10数km 流れ、最後に1,000m 近い岩壁を一気に地上に落ちていきます。1,000m もの高度差に、滝の下の方では水が霧のようになります。そのため、滝壺はありません。微妙に変化する水しぶきのカーテンに陽光がさし、うっすらと虹がかかっています。その壮大な自然の美を飛行機から間近に眺めることができ、驚嘆しました。

英名エンゼルフールは、スペイン語ではサ



雲の上に頭をみせるテーブルマウンテン



高度差が 979m あるため滝の下方は霧状、エンゼルフォール

ント アンヘル(アンヘルの滝)と呼ばれます。  
英名の由来は人名です。1937年、アメリカ人パ

イロット、ジミー・エンゼルは金鉱を探してベ  
ネズエラ上空を飛行中に巨大な滝を見つけまし

た。こうして、この滝は発見者にちなんでエンゼルフォールと呼ばれるようになったのです。

エンゼルフォールの景観は雨量に左右されます。雨季には水量の多い壮大な滝の景色を見ることができますが、乾季にはテーブルマウンテンから流れ落ちる水が殆ど無くなり、エンゼルフォールも無くなることもあるそうです。したがって、観光するならば絶対に雨季。その際には夏服主体も簡単な防寒服を。ギアナ高地のあるカナイマ国立公園は標高 800～2,800m、平均気温 10～21℃、赤道近くに位置する熱帯圏で高温多湿ですが、スコールに降られると気温は下がってきます。そのため、ボートで移動中などにスコールにあうと肌寒く感じられることがあります。

PURA VIDA TOURISMの第2話「 Gondwana 大陸の自然遺産」(マダガスカル編)で古代大陸“ Gondwana 大陸”についてふれました(かつて地球上の陸地は Gondwana 大陸と呼ばれるひとつの大陸であったという説)が、テーブルマウンテンの誕生も約 2 億 5000 万年前の Gondwana 大陸の分裂が始まります。ギアナ高地は Gondwana 大陸が分裂する回転軸のような場所だったために、移動することなく留まりました。そのうえ、他の大陸が何度も気候変化の影響を受けたのに、この地域だけはずっと熱帯気候のまま現在に至っています。まさに現代に残る Gondwana 大陸、つまり「失われた世界」といえるのではないのでしょうか。

ギアナ高地は 1994 年に世界遺産に登録され、広くその名が知られるようになりました。ギアナ高地のあるベネズエラ南東部は、ほとんど未開のままのジャングル地帯が広がり、緑の魔境とも呼ばれ、なかなか人を寄せ付けない場所ではありますが、太古の地球の記憶を宿す世界として、興味を持つ方も多いのではないのでしょうか。この地に足を踏み入れ、探検家や冒険家の気分を味わってみませんか？



約 2 億 5000 万年前の超大陸、 Gondwana 大陸の地図